

戰史資料調査件報告

昭和二十年十月廿一日

独立歩兵第九大隊 陸軍准尉 高橋 繁 信

陸軍准尉

高橋 繁

信

支隊收容課 渡務 柳中

首題 件二箇 左記、通告不

左記

一 部隊名

独立歩兵第九大隊 部隊長 陸軍大尉 高橋 繁

部隊履歴、概要（含部隊行動）

昭和十九年八月十日 独立歩兵第九大隊 假編 完成 結

八月十日 假編 部隊 丸尾 岩發

八月十七日 麻見島 着

九月六日 麻見島 登

九月十日 沖繩縣 石垣島 上陸

昭和九年九月十九日 引統々西北地區ニ移駐同地區ノ警備
二十六年六月十日 甲戰備下令

令 七月三日 甲戰備下令解除

令 八月五日 大東亞戰事終戦

令 十月二日 西北地區ヨリ同島四箇所ニ移駐ヨリヤ
防瘧ノ萬全ヲ期ス

令 十月五日 部隊某次級遺者石垣島ニ在

令 十月五日 某次級遺者(部隊某但シ將校ヲ除キ)

令 十月九日 浦賀着

令 十月二日 召集 解除 (某次級遺者)

二、指揮隷屬関係及其變遷ノ概要

獨立混成第四旅團隷下
部隊内各中隊ニ在リ指揮隷屬関係ノ變遷

一、第三中隊 獨立機関銃第十九大隊ニ轉属 昭和十年三月三日

二、甲戰備下令同時ニ同島特設警備隊一ヶ小隊ニ大隊ニ配属
此部隊遊撃地區ノ戦斗ニ係リ甲戰備解除ト共ニ配属
ヲ解除セラル

三、参加セル主要な戦死傷損耗

一、南 西空襲 戦死自昭和十年十月四日迄 今年十月廿三日

二、天 一掃作戦 昭和十年三月廿五日至 今年六月三十日
同島各飛行場跡痕補修作業ニ従事
死傷損耗 殆クナシ

四、総論 衛生

一、給養 向上ニ戦力増強ニ資スルハ同島作戦ノ眼目ナリト感スリ
至食ノ割合給養量ノ變遷次ノ如シ

昭和十九年九月上陸直後 精米五四〇石 精麦一六五石
副食ノ野菜、甘藷ヲ使用シ補フ

昭和九年十月 主食 玄米六三〇瓦 甘藷二〇〇瓦

副食 特ニ猪肉八日量 一九瓦ヲ確保セリ

十月 変化ナシ

十一月 主食 玄米六六五瓦 甘藷九五瓦

昭和十年日 主食 增量ヲ計行 玄米六八〇瓦 甘藷六五瓦

調味料 排泄ノ注意ノ如クナラズ

三月 玄米 二八〇瓦 甘藷 一〇〇瓦

四月 玄米 五三〇瓦 甘藷 四〇〇瓦 七月迄同額

八月 玄米 四五〇瓦 甘藷 二〇〇瓦

九月 玄米 三〇〇瓦 甘藷 一〇〇瓦

十月 玄米 三六〇瓦 甘藷 一〇〇瓦

八月より現地自給ニ依リ甘藷ヲ利用 生菜 生野菜ノ取調良好

ニシテ給食ハ漸次向上セリ

又衛生

マヤ防護 給食長ノ向上 消化系傳染病予防

ニ重実ヲ指向シ健康確保ニ萬全ヲ期ス

マヤ患者消長 十九年十月初旬よりマヤ患者

続々猖獗シ極メタリ 二十一年一月一三月ハ低調ニ止

六七月最大患者數ヲ保有 部隊全人員ノ五十%

ヲ占メテ到ル 爾後漸減ノ途ヲ辿リ

死七者概要 天一端作戰間 瘡痕補修作業中

等機列ナル敵砲爆毒下 甚々一重傷六

名 死者 補氣補血者四五名 (内九割ハマヤ)

尚 瘡癩ノ患者多ク 瘡藥物不足 固却ス

将来ニ対スル意見 部隊進駐 駐以多ニ於ケル対策

ノ効果ハ進駐後ニ比シ 數倍ノ効果ヲ見テト認ム

之カ多ク 衛生 校園其他ノ衛生施設ヲ 幸々ニ進駐マシ

ルヲ可トセン 尚 兵ニ對スル 予備教育ノ徹底ヲ希望ス

五、終戦より敗退迄の行動概要

終戦後諸手続終了後、専ら防疫ニ意思ヲ用キ
給ニ依向シテ計ル為、四箇所ニ移駐シカ対策ニ遺憾
ナキヲ期シタリ。又他方内地帰還期日、三期ニ對シ
テ想ニ現地自活作業、徹底ヲ期シタリ
輸送ニ百兵降除、同特筆ニ事次ニレ

戦史資料調査、件

船舶工兵第三聯隊第一中隊 肥田木隊

一、部隊名及部隊履歴、概要、部隊長名

船舶工兵第三聯隊第一中隊

昭一九六、二、三、和歌山ニ編成、内地港灣出発昭一九七、二、沖繩本島

着、一九七、四、同日第一中隊喜古島派遣、夕ノ出発、一九七、一九、喜古島着

同日、昭一九八、二、間、揚陸作業ニ従事

昭一九八、二、三、肥田木少隊石垣島揚陸作業援助、夕ノ出発、一九八、二、三、

石垣島着、同日、昭一九八、二、三、間、海上輸送業務ニ従事

部隊長 陸軍少佐 大島 詰男

二、指揮隷屬關係及其ノ変遷、概要

船舶第七輸送司令部 ↓ 第三二軍指揮下 ↓ 台湾軍指揮下

参加セル主要ナル作戦(戰鬥)、概要、死傷、損耗

沖繩作戦

戦傷死、四名

三、台養新上

37